

---

---

# 令和5（2023）年度 自己点検・評価書

兵庫大学・兵庫大学短期大学部

---

---

---

## 大学質保証委員会 委員長所見

この度、令和 5（2023）年度事業計画について、「兵庫大学・兵庫大学短期大学部 内部質保証実施要領」に基づき、期末報告に対する最終評価を行った。

### 1. 自己点検・評価の意義

本学で行う自己点検・評価は、建学の精神、本学の目的及び各種方針等の具体化に向けた内部質保証の仕組みを構成する不可欠な要素である。内部質保証の目的は、本学の諸活動を自己点検・評価したうえで、その結果を明らかにし、結果を検証して改善に結びつけることにある。

令和 2（2020）年度に改定された内部質保証方針及び実施体制に基づき、全学的な自己点検・評価システムが再構築され、現在その下で自己点検・評価活動を進めている。本年度実施分は、「睦学園グランドデザイン 2030」を基に策定された、部門別中期計画である「Vision2030（第 4 次中期計画）」の実施初年度にあたる自己点検・評価である。

令和 5（2023）年度も前年度に引き続き、本学の維持・発展に大きく影響することを意識し、自己点検・評価活動を行った。

### 2. 評価結果について

令和 5 年度は、学園創立 100 周年を迎え、「睦学園グランドデザイン 2030」の中核をなす学園内連携の必要性を再認識する機会となった。また、大学の視座だけではなく、より大きな枠組みの中で高等教育機関としての役割や使命を改めて考える一年でもあった。

さらに令和 5 年度には、日本高等教育評価機構による大学・短期大学機関別認証評価を受審し、大学・短期大学ともに評価基準適合の判定を受けた。認証評価の基準を踏まえた点検・評価を実施し、実地調査への準備・対応を行うという状況下にあっても、事業計画の遂行にご尽力いただいたことに感謝の意を表したい。

#### I. 人間教育

3つのポリシーについては、教育改革推進会議が行う教学アセスメントを通じて、各学科において、点検・評価する仕組みができつつある。しかし、3つのポリシーの点検・評価の意味や趣旨の確認が十分ではないため、いずれの学部学科も積極的に取り組めていない。3つのポリシーは大学の使命・目的を実現するため、各学部学科の教育活動と密接に連携し策定されたものである。今後、教学アセスメントと連動させ、再点検・見直しの活動を推進していく。

#### II. 教育研究

学生の希望に沿った質の高い出口保証については、概ね成果を上げることができた。とりわけ、健康システム学科の 2 年連続の保健体育科教員の現役合格、社会福祉学科の安定

的且つ高い国家試験合格率及び公務員採用試験の内定は特筆すべき成果である。その一方で、芳しい結果を残すことのできなかつた学科もあった。不調に終わった学科については、改善が急務である。また、こども福祉学科の公立園への就職希望者の減少傾向については、保育科間との情報共有を図るなど引き続き受験者確保に向けた対策を継続する。

かねてより課題となっている中途退学率については、各種データ・学びのカルテやディプロマ・サプリメントに基づく面談システムの実施などにより一部改善が見られるものの、全学的には大きな変化には至っていない。学科の教育研究活動や指導、障がい学生支援オフィス（Ｑるーむ）、健康管理センター、学生支援オフィス等による支援に加え、学生生活をより充実させるためにクラブ活動や学内行事、教職指導の強化や国際交流事業等、組織を超えたサポート体制がより充実することを望む。

学部学科改組計画について、中期計画に沿った教育組織体制を構築するためには、現代ビジネス学科以外の学科においても、留学生の受け入れを念頭に置いたカリキュラム改編が求められる。

研究活動の推進については、同規模大学、近隣大学の調査結果を基にした「兵庫大学の共同研究推進計画（案）」を作成したことを確認した。また、個人研究費のインセンティブ制度の策定や傾斜配分の支援方策の制度化などの方策を検討し、改善を図ろうとしている。研究活動は高等教育機関の重要な役割であり、学生への教育研究にとっても活性化が不可欠であることから、研究水準及び研究成果の向上に向けたさらなる支援対策が望まれる。

### Ⅲ. 国際化推進

留学・国際交流センターを立ち上げ、本格的な国際化推進事業を始動させた。国際化に向けた取組みを充実させることはもとより、学内外へ諸活動を発信することも重要であり、公式サイトや SNS 等での発信方法などを検討し、さらに充実させていくことを望む。

中国、韓国、ベトナムの大学等との MOU 締結を行い、実質的教育連携を進展させるとともに留学生確保に関わる戦略的検討を進める必要がある。また、留学生が安心・安全に生活できるよう受入れ体制の見直しや、さらなるサポート体制の構築を行うとともに、出口対策も重要課題である。留学・国際交流センター、学生支援課、学科担当で連携した支援体制の構築を進めることを期待する。

### Ⅳ 社会連携

卒業生は、大学にとって特に重要な、財産ともいえるべきステークホルダーである。早急に同窓会事務体制を構築し、卒業後の学びや社会人としての成長に関する支援の実施を期待する。

生涯学習の社会人受講者獲得に向けた取組みについては、リスキング、リカレント教育事業にも力を入れ、達成目標に近い成果を上げていることを確認した。

今後は、社会人のキャリアアップに資するオンライン・リスキリング領域でのプログラムの開発、実施にも注力していただきたい。連携協定先に実施している「地域連携に関する状況調査」については、目的に合った調査設計と分析を行い、既存の連携協定先との関係強化に努める。さらに今後は、地域創生人材育成プラットフォーム事業の具体化について検討を進め、早期に当該事業としての成果が上がることを期待する。

## V 経営基盤

組織体制の見直しや人件費抑制計画、人事考課の改正等について、未着手の計画が見受けられる。課題を把握した上で、計画推進を早期着手し、改善を要する事業への対応を強く求める。

「Ⅱ. 教育・研究」に係る教育課程の改編については、各学科の適正規模化を図ることも斟酌し計画すべきであるが、その場合、各学科毎の収支状況も踏まえ、求められる定員充足状況や定員規模についても改めて確認する必要がある。

バリアフリー計画や耐震工事を含めた施設設備計画についても、確実に実行できるよう対応策を検討していくことが望まれる。

広報活動については、公式サイト改修や広報誌の拡大活用の検討、また、学園創立100周年に関するPRを行うなど、様々な媒体での広報展開が行われていることが確認できた。引き続き、大学認知率向上や入学希望者増加に向けたブランド力強化を検討、推進していきたい。

## 3. 総括

令和5（2023）年度の事業計画は、「睦学園グランドデザイン2030」及び「Vision2030（第4次中期計画）」の初年度にあたり、大学部門の最終目標である「地域になくてはならない大学」を目指し、本学の役割や特色、強みを明確化し、伸長させていく大事な一年となった。「睦学園グランドデザイン2030」は、各部門が責任主体として推進するが、計画の実現には大学部門が担う点も多い。「改善・改革」の意識を持って教職員全員が積極的に計画に関わり、諸課題の解決に向け努力していかなければならない。引き続き、全教職員にご協力をお願いしたい。

令和6年7月10日

兵庫大学・兵庫大学短期大学部

学長 河野 真

令和5（2023）年度事業計画 評価結果一覧

基本方針 重点戦略	計画NO	事業計画	推進組織等		掲載ページ
			責任者	関連部署等	
<b>I 人間教育</b>					
「和」の精神に基づく陸人材の育成	I-①	3つのポリシーの再点検・見直し	(副学長)	全学部全学科	1
<b>II 教育研究</b>					
教育の充実と総合的「知」の形成	II-①	教育の質向上に向けた教育プログラム		全学部全学科 教育改革推進会議	3
	II-②	学生満足度の向上に向けたIR機能の活用		全学部全学科 教育改革推進会議 IR推進室	5
	II-③	学生の希望に沿った質の高い出口保証		全学部全学科 教務部(教務課・学生支援課)	—
	③B	現代ビジネス学部 現代ビジネス学科 公務員試験合格率7%以上 優良企業就職者50%		現代ビジネス学部 現代ビジネス学科	9
	③N	健康科学部 栄誉マネジメント学科 管理栄養士国家試験合格率 全国平均以上(新卒)		健康科学部 栄誉マネジメント学科	11
	③H	健康科学部 健康システム学科 教員採用試験合格者 7人(過年度生を含む) 健康運動指導士2人、健康運動実践指導者8人		健康科学部 健康システム学科	13
	③K	看護学部 看護学科 看護師国家試験合格率 全国平均以上(新卒) 保健師国家試験合格率 全国平均以上(新卒)		看護学部 看護学科	15
	③S	生涯福祉学部 社会福祉学科 社会福祉士国家試験合格率 75% 精神保健福祉士国家試験合格率 75% 公務員試験合格、独立行政法人合格者 2人 就職資格 卒業時取得率100%		生涯福祉学部 社会福祉学科	17
	③Y	生涯福祉学部 こども福祉学科 公務員(公立園)合格者数 10人以上		生涯福祉学部 こども福祉学科	19
	③T	教育学部 教育学科 公務員採用試験に向けた取り組みの実施		教育学部 教育学科	24

評価	評価理由 及び特記事項
<b>I 人間教育</b>	
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>3つのポリシーの点検・評価の意味や選言の確認が不十分なため、いずれの学部学科も積極的に取り組めていない。しかし、3つのポリシーを踏まえた取り組みの点検・評価は、教育を自ら動かしながら、学生や受検生にわかりやすいよう、またその達成度の評価がしやすいう見直し、改訂していかねばならない。3つのポリシーは大学の使命・目的を実現するため、各学部学科固有の教育活動と密接に連携して策定されたものであり、学部・学科が主体的にポリシーに照らし合わせて教育活動の点検をおこなうべきである。</li> <li>全学的な方針や学位プログラムを横断する項目やポリシーに照らした取り組みの適切性などについては、教学アセスメントを通じて、各学科において、点検・評価する仕組みができていないが、現状では十分な再点検が行われているとはいえない。なお、教学アセスメントと連動させた点検評価は、教育改革推進会議の所掌事項ではなく、教務部が学部横断的にチェックをし、点検を推進する機関となる方がよいのではないかと思われる。また、学内の第三者の客観的観点を取り入れる仕組みも講じている必要がある。</li> </ul>
<b>II 教育研究</b>	
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>MDASHプログラムの設定とその実施に向けた指定科目の外国語教育の充実に向けては、さらなる体制の構築が必要である。</li> </ul>
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>教学マネジメントに係るデータの集積と分析、学習成果の可視化など、目標である「学びのカルテ」や「学びのプロファイル」の発行、IR systemによるデータの蓄積(計画通り)に進められている。また、学校基本調査の入力業務に着目し、情報の一元化や管理、各部署の業務軽減や活用の利便性に関する改革をおこない、間接的ではあるが学生満足度向上に係る支援をおこなっている。今後は、他大学の公開データ等の比較も含め、本学の強み・弱みを可視化し、要因分析を行い、戦略の策定・提言や経営、教育の質改善に資する取組みへと発展していくことを期待する。</li> <li>本学の教学IRが次第に認知され、成果を上げる一方で、関係部署との連絡調整など、改善を要するところも未だ見受けられる。今後は、部署間の連携を強化し、各部署の積極的関与や責任ある推進力をもって教学IR機能を充実させ、活用していく必要がある。</li> </ul>
—	—
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>到達目標の公務員試験合格率7%以上については、合格者9名という目標を超えた合格者を出しており評価できる。また、もうひとつの目標である優良企業就職者50%も達成している。他大も常に対策を更新しているため、結果を踏まえつつ継続して対策をめぐめていくことを望む。また、出口の結果を活かした学生募集を期待する。</li> <li>留学生の就職の支援対策も進めていただきたい。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>国試受験希望者の80%以上が受験できたが、管理栄養士国家試験合格率全国平均以上(新卒)の到達目標は達成できなかった。国試結果と学生満足度向上を連動するため、合格率を上げるための対策は必須であり、成績下位層対象のブートキャンプなど学科の工夫・努力は評価したい。しかし、新しい試みとともに、講習会や勉強会等の開始時期、開講方法、講座内容や難易度など、これまでの事業計画の内容と結果の分析を行うことも重要だと考える。</li> <li>各年度の学生の特性も踏まえ、学科一丸となり、全国平均以上(新卒)の合格を目指した指導体制の構築、国家試験対策の一層のブラッシュアップを期待する。</li> </ul>
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員採用試験(保健体育)において、2年連続現役合格を成し遂げたこと、既卒生も含めて到達目標を超えた合格者を輩出していることは評価できる。学年ごとに学生の志望傾向にも依存するが、この勢いを維持しつつ他の到達目標の達成も目指していただきたい。</li> <li>実技試験は全員合格であったが、健康運動実践指導者の合格者は3名(37.5%)と低調であった。筆記試験対策講座への出席率向上策を講じることが必要である。</li> </ul>
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護師、保健師ともに、新卒合格率全国平均を上回ったことは評価できる。</li> <li>新たに心電図検定合格者を出したことも評価できる。国試結果も含め、ICLSの取り組みなどの実績を、改善指示にもあったように広報の強化につなげていただきたい。</li> <li>ICLSコースと学生の満足度向上との関係を示すデータが必要である。</li> <li>9月卒業生への国試対策の継続強化も必要である。</li> </ul>
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>国家試験合格率、公務員試験合格者数ともに到達目標を超えており評価できる。学年ごとに学生の希望も異なるため難しい面もあると思われるが、引き続き目標達成を目指すとともに、受験率の向上も期待する。</li> </ul>
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>公立園就職希望者が4人であったことは残念である。公立園採用者の前掲となる受験者確保のために、当面の待遇以外の面も含めて民間と具体的に比較しながら公立園の良さを説明するなど、早期の段階から受験者を確保するための対策を今後も継続する。また、同様の目標を定めている保育科との情報共有を積極的にすることも必要である。</li> <li>学生の満足度調査結果(アンケート調査結果)なども活用し、評価することも必要と考える。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>到達目標の数字との乖離が非常に大きい。モチベーション向上などに対する取組は、他学科のキャリア教育の情報を参考にしていきたい。</li> <li>小学校教諭を希望している学生の学習意欲や教職に対するモチベーションは、採用試験に向かう意欲に影響するだけでなく、教員になってからの教育活動にも影響していく基礎的能力といえる。</li> <li>3年生での教員採用試験出願枠拡大をうけ、教員採用試験に向けた意識の醸成を行い、学生の認識と意欲の改善に努め、教職センターとの連携を強化し、面接試験対策や筆記試験対策に取り組みとともに、利用学生増加に向けた施策を講ずる必要がある。</li> </ul>

基本骨子 重点戦略	計画NO	事業計画	推進組織等		掲載ページ
			責任者	関連部署等	
II 教育研究					
	③C	保育科第一部・保育科第三部 公務員(公立園)合格者数 10人以上	副 学 長 ( 教 育 担 当 )	保育科第一部 保育科第三部	28
	II-④	中途退学率の改善(面談システムの活用を含む)		全学部全学科、教育学部	37
	④B	現代ビジネス学部 現代ビジネス学科		現代ビジネス学部 現代ビジネス学科	40
	④N	健康科学部 栄養マネジメント学科		健康科学部 栄養マネジメント学科	42
	④H	健康科学部 健康システム学科		健康科学部 健康システム学科	45
	⑤K	看護学部 看護学科		看護学部 看護学科	47
	⑤S	生涯福祉学部 社会福祉学科		生涯福祉学部 社会福祉学科	49
	⑤Y	生涯福祉学部 こども福祉学科		生涯福祉学部 こども福祉学科	51
	⑤T	教育学部 教育学科		教育学部 教育学科	53
	⑤C	保育科第一部・保育科第三部		保育科第一部 保育科第三部	55
	II-⑤	現代ビジネス研究科の教育研究の充実(現代ビジネス学部との連携を含む)	現代ビジネス研究科	57	
	II-⑥	看護学研究科 博士前期課程・博士後期課程の教育研究改革	看護学研究科研究科	59	
	II-⑦	中期計画に基づく学部学科改組計画の策定	学長	61	

評価	評価理由 及び特記事項	
	II 教育研究	
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な対策を実施することによって目標を超えた合格者数を達成するとともに、昨年度を上回る公立合格者を輩出できたことは評価できる。</li> <li>公務員希望者は昨年度より増加したこと、複数の自治体を受験する学生があったことなどは、教員の説明や勧めによると思われるが、合格するための学習のモチベーションの維持は難しく、引き続き検討を要する。</li> </ul>	
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年度の学生アンケートの「学生満足度」の結果は、「とても満足」「ある程度満足」を合わせた目標の80%を超えている。しかし、依然として、中途退学者は面談システム等により若干おさえられているもの、まだ多い状況にある。その要因は、「学びのカルテ」の発行や「授業アンケート」の実施など、学生に寄り添おうとする姿勢と、組織や教職員の足並みが揃わないという現状との齟齬にあると思われる。全学的に足並みをそろえ、より真摯に学生に向き合うことが望まれる。</li> <li>中途退学や原級留置への予防的対応には、卒業中心の学生対応や面談システムの徹底が必要である。入学前教育、初年次教育の充実や学習支援などの教育支援機能を活用していくなど、大学が一体となって取り組むことが重要であり、各部署が連携をとり協力している組織として、意識の醸成が必要である。</li> </ul>	
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年生の退学率が0となっていることは評価できるが、上級学年になるほど退学率が高まっている。これは従来の学生対応方針の影響によるものと考えられるため、現在の1年生に対するような方針を継続することで将来的に中途退学率の改善は見込まれる。</li> </ul>	
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年次への進級要件の見直しや学生情報の共有が強化されるなど、中途退学率の改善に向けたさまざまな施策を実施していることは評価できるが、効果が目に見えない状態にある。施策の効果を検証し、対策を強化すべきである。</li> </ul>	
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>学内施設の不十分といった問題から、状況が改善されにくいことはやむを得ない。しかしながら、学生対応についての教員間の温度差は解消可能なことである。外部講師導入など新たな取組みについては評価できるため、今後も継続していくことが望まれる。</li> <li>対策を強化するとともに、進級要件の妥当性について早急に検討すべきである。</li> </ul>	
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育内容が高次元化し、高レベルの能力が求められ、学力不足などにより不適応状態になる学生や、入学後に進路変更する学生も出ている。中退・除籍率は若干高くなり、目標に到達できていない。成績不良など学習の継続に問題を感じている学生には、チューター、科目担当者に加えて、学部長、副学部長の面談の実施など、サポート体制の強化は今後も継続することが必要である。やる気が低下した学生には学習意欲を維持できるような支援するとともに、他学科への編入学等を含めた助言をするなど、本学での学習の継続を支援していくことも有効である。</li> </ul>	
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>母数が大きい学科では、一人の学籍移動が、大きく影響する。そのため、中退・除籍率は高くなり、目標に到達できなかった。</li> <li>メンタルケアの必要な学生の動向が退学率と連動しているように見受けられる。「学びのカルテ」と「面談システム」を活用した支援体制を継続して確立していくとともに、今後も学科教員による丁寧な学生対応の継続を望みたい。</li> </ul>	
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>おおむね目標を達成できている。しかし、2年生は学生数が多くないことから、退学・除籍率が高くなっている。面談システムを活用し、丁寧な個別対応を望みたい。</li> </ul>	
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年次生だけの学部構成にあってはおおむね目標を達成できているものの、年度末に至るにつれて退学者が出た。また、いろいろな事象が生じている。現状を維持するのみならず、低学力学生や目的意識の希薄な学生に対する支援の強化がさらに必要になると考えられる。</li> </ul>	
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>退学理由の多くは経済事情や学業不振(成績不振、修学意欲低下など)として、学科教育や大学生活の不適合(ミスマッチ)であり、学生本人や保証人との面談等、対応をつくしても、第一部、第三部ともに退学・除籍率の目標は達成できなかった。</li> <li>オープンキャンパスでの面談の充実や附属校との強固な連携やガイダンスの充実など、不適合に対する予防的措置を講じることが大切である。</li> <li>学生との信頼関係を築き学生の意欲向上や学習支援に努めるなど今後も丁寧な個別対応を望みたい。</li> </ul>	
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>刊行物の発刊や公開講座、系列高校での授業等、計画しながらも実施できなかったことが多く、これらは研究の進捗状況などの関係から、なかみか当初の計画とおりに進捗は進みにくい性質のものである。しかしながら、そうした中で実施できた「院生による学部授業」の学生評価が高かったということは評価できる。今後も実施できることから回数を重ねれば、好ましい成果が得られると期待される。</li> </ul>	
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>おおむね目標を達成できているが、新たな大学院のあり方及び学生募集について継続的に検討することを期待する。</li> </ul>	
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>中期計画に沿った教育組織体制を構築するためには、現代ビジネス学部以外の学部においても、留学生の受け入れを念頭に置いたカリキュラム改編が求められる。</li> <li>学部学科改組後の検証を行った上で、他大学の事例等を参考にしながら計画を策定することが必要である。</li> <li>改編の議論を進める際に、「誰」「何」をどの程度まで議論し、改編のプランをまとめていくのか、それをスタート時点で共有することが大切である。また、早期から関係部署に情報開示して議論への参加を促すことで、改革への推進力が増すのではないかと考える。</li> <li>改編に伴う具体的な申請業務については、学部教員の協力を得るべく特段の配慮が必要となると考えられる。</li> </ul>	

基本骨子 重点戦略	計画NO	事業計画	推進組織等		掲載ページ
			責任者	関連部署等	
	II-8	新設置基準に対応した教員編制等のあり方検討	学長	学長	69
	II-9	課外活動の活性化		教育学部 (学生支援課)	78
	II-10	学生の多様性に配慮した支援の強化	副学長 (教育担当)	教育学部 (教務課・学生支援課)	85
	II-11	BYOD環境の整備(ソフト面・ハード面)教育・支援体制及び基盤環境の整備		学修基盤センター 事務局 (管財課)	87
	II-12	共同研究(国際共同研究を含む)の推進	副学長 (研究)	事務局 (研究支援課)	95
	II-13	委託研究の拡充や寄附、助成等による独自研究財源の確保	副学長 (研究・社会連携担当)	附属総合科学研究所 事務局 (研究支援課)	99
	II-14	研究成果の可視化	副学長 (研究・社会連携担当)	全学部全学科 事務局 (研究支援課)	104
<b>III 国際化推進</b>					
的視野で行動する人材の育成					
	III-1	国際交流方針等の策定	副学長 (研究・社会連携担当)	留学・国際交流センター 大学運営会議	112
	III-2	キャンパスのグローバル化に関する制度設計等	副学長 (研究・社会連携担当)	研究科・全学部全学科 留学・国際交流センター	114
	III-3	留学生拡充戦略の策定	副学長 (研究・社会連携担当)	入学部 留学・国際交流センター	116
	III-4	留学生のニーズを踏まえた科目や学科の設計などの教育機会の拡充	副学長 (研究・社会連携担当)	留学・国際交流センター 全学部全学科	118
	III-5	留学生受け入れ環境の整備	副学長 (研究・社会連携担当)	留学・国際交流センター	120
	III-6	留学生卒業後進路の開拓	副学長 (研究・社会連携担当)	留学・国際交流センター 教育学部 (学生支援課)	122
<b>IV 社会連携</b>					
地域に開かれ地域と共に成長する					
	IV-1	卒業生とのネットワークの構築及び同窓会との連携強化	事務局 局長	事務局 (総務課)	124
	IV-2	地域人材育成プラットフォームの形成と事業創出	副学長 (研究・社会連携担当)	社会連携オフィス	126
	IV-3	生涯学習の社会人受講者を延べ5,000人以上	副学長 (研究・社会連携担当)	エクステンション・カレッジ	143
	IV-4	新たな連携協定の検討	副学長 (研究・社会連携担当)	社会連携オフィス	146

評価	評価理由 及び特記事項
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学設置基準の改正に伴う教員教員制度に関しては、プロジェクトで基本事項を決定し、今後の課題を報告している。制度導入に伴う課題の抽出までしななかったのは残念である。</li> <li>・本学の教員教員制度を考えた上での前提として、学位プログラムに責任を有する専任教員は、引き続き「教員」として「主要授業科目」に本学では、卒業認定科目ではない「教職」に関する科目も含むことなどが提言されている。</li> <li>・実際に本学でこの制度を導入した場合の教員が負うべき責任や職務の範囲、エフォートを含む労務管理上の問題や教員教員の情報を公開する必要性など、導入に向けて課題が浮き出ており、引き続きプロジェクトで検討することが必要である。</li> </ul>
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課外活動支援に関するアンケートを実施したことは評価できる。実施結果を参考に早急に具体策を検討していただきたい。</li> <li>・課外活動の加入率が目標を達成したことは評価できる。さらなる活性化及び支援体制を構築し、レギュラー選手に限定することなく、幅広く部員獲得が図れるよう期待する。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な学生の支援について、一定の成果を挙げている点について評価できる。</li> <li>・教職センターの設置にもない、従来の学習支援体制の再構築が迫られた困難な1年であったと考えるが、今後は学習支援と協働した学生支援を一体的に考える必要がある。</li> <li>・本年度実施できなかった他大学の調査を早急に行い、その結果を基に、相談場所、アライメントの確保、V/Aフリー環境の整備について、具体的なプランを策定し予算獲得を目指すべきである。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度中の環境整備は実現できなかったが、2024年度に文科省補助金(IC活用推進事業)に申請すべく準備を進め、財政面等を考慮しながら早急な環境整備を図る必要がある。</li> <li>・教育支援体制整備(ソフト面)は関係部署と連携を取りながら推進することを期待する。</li> <li>・同規模の他大学の調査が未実施であるが、早急に実施されたい。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同規模大学、近隣大学の調査結果を基にした兵庫大学の共同研究推進計画(案)を策定したことは評価できる。</li> <li>・研究支援課は、教員の共同研究の意欲を刺激し、裏切り役となる、附属総合科学研究所を活性化させる方策を検討していただきたい。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定目標を達成している点は評価できる。次年度は、課題として挙げられている具体策に着手することが望まれる。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究業績プロの更新を進めるためには、教員へのインセンティブの明示が必要である。</li> <li>・EndNoteの助成は評価すべき取り組みである。</li> </ul>
<b>III 国際化推進</b>	
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学の国際化に向けた諸活動を学内外に発信することは極めて重要なことであるため、国際交流サイトを大学のHPのTOPページへ格上げすることや、SNSでの情報発信をさらに充実させていくことを望む。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サマーキャンプの実施や福美町国際交流協会との交流事業への参加など留学生の交流事業について評価できるが、留学生と日本人学生との交流事業については見直しが必要である。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国、韓国、ベトナムの大学等とのMOU締結を行い、実質的教育連携が進捗することを望む。</li> <li>また、留学生確保に関わる戦略的検討を進めていただきたい。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本計画の目的に沿った人材育成を達成するための学内横断プログラムの検討を進めていただきたい。</li> <li>また、海外(特にアジア諸国)で需要が見込まれる分野に従事する人材養成に向け、現行の教育課程の再編成も念頭に置いた、検討を急ぎ着手していただきたい。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生が安心・安全に生活できるような受け入れ環境体制の見直しや、さらなるサポート体制の構築を期待する。シェアハウス利用手引きの多言語翻訳や、在学生が加古川警察からの生活安全ガイダンスの実施は、今後も定期的に実施すること。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・留学生の出口戦略は重要課題であるため、留学・国際交流センター、学生支援課、学科担当者が連携した支援体制の構築が必要である。</li> </ul>
<b>IV 社会連携</b>	
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の学びや社会人としての成長に対する支援は卒業生に対してだけでなく、「資格保有卒業生の組織化」を通じて、在学生の満足度も高めることが、大学としての使命を果たすことにもつながる。目標に見合った事務局(総務課)体制の整備およびマンパワーの最適化により、早急に事業を進めることを強く望む。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域に開かれ地域と共に成長する」大学として、これまでさまざまな事業を展開しているが、必ずしも焦点が定まっているとは言えない。本事業については、趣旨や目標を明確にした上で、「地域創成人材育成センター」に引き継ぎ、本学の人材や資源とのバランスを取りながら進めることを期待する。</li> </ul>
A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会人受講者を延べ5,000人以上」という達成目標に近い成果を上げている。リスクリンク/リカレント教育にも力を入れ、新たな協力団体の発掘、履修証明プログラム設置や通信教育の新たな課程設置など幅広く展開している点は高く評価できる。</li> <li>ただし、単に講座数、受講者数を増やすだけでなく、収支を確保し、黒字化を図りながら生涯学習を展開することが必要である。</li> <li>・今後は、社会人のキャリアアップに資するオンライン・リスクリンクでプログラムの開発、実施にも注力していただきたい。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域連携に関する状況調査」は毎年実施されているが、目的に沿った調査設計と分析が行われていない。今後は、まず当該事業の明確な目標を設定した上で、それに対応した調査を実施すること、その分析結果をふまえて地域連携のメットや方策の検討を行い、連携協定先を開拓することを望む。</li> <li>・新たな協定先の選定については、連携協定に関する計画を精査した上で行うべきである。</li> </ul>

基本骨子 重点戦略	計画NO	事業計画	推進組織等		掲載ページ
			責任者	関連部署等	
<b>V 経営基盤</b>					
永続的な変革と発展を支える組織づくり	V-①	安定した収入確保と支出削減 教研・管理経費比率40%	事務局長	業務推進会議 事務局 (管財課)	160
	V-②	組織体制の見直し検討		業務推進会議 事務局 (総務課)	162
	V-③	学園IRシステム構築のための他部門との連携		法人事務局 IR推進室	199
	V-④	訴求力を高める広報活動の展開		業務推進会議 入学部 学長室	201
	V-⑤	人材育成の観点からのFD・SDの再構築、評価制度の検討		FD・SDオフィス 事務局 (総務課、研究支援課) 業務推進会議	205
	V-⑥	「キャンパス魅力向上計画」の策定		業務推進会議 教育学部(学生支援課) 事務局(管財課)	249

評価	評価理由 及び特記事項
<b>V 経営基盤</b>	
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確実に実現できるよう、引き続き、人件費抑制計画、DX化による支出抑制及び、継続的な寄付事業や外部資金獲得等による収入増加策についても、さらに検討していただきたい。</li> <li>・「経費精算クラウドシステム」導入に向けて、確実に準備を進めることを期待する。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務のDX化による業務効率化、各種委員会の整備について、対応を進めていただきたい。</li> <li>・勤怠・人事システムの導入に向けて、早急に検討することを期待する。</li> <li>・学科毎の収支の状況も踏まえ、黒字化の要件となる充足状況、学科定員について改めて確認する必要がある。カリキュラム改編は各学科の適正規模化を図ることも踏まえ計画されるべきである。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「HUsystem高校版」構築に向けた作業は順調に進捗中である。高校の現状にあったシステムの導入に期待する。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公式SNS、「DATABOOK」、広報誌「和」の活用拡大や、公式サイトへの魅せ方の検討等については実施されているが、大学認知率や入学推薦率がさらに向上するよう、引き続き努めていただきたい。</li> </ul>
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会に加えて、講演会や勉強会は計画的に実施されている。今後、R5年度から実施している「個人研究費傾斜配分」等の効果検証を引き続き行うとともに、教職員評価制度の改善やクロスアポイントメント制度の検討等は、確実に推進されることを期待する。</li> <li>・今後は、事務職員を対象に大学事務の合理化・効率化、DX推進等をテーマとした研修や検討の場を増加させることが必要である。</li> </ul>
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震工事を含めた施設設備計画を策定した上で、確実に実行できる手当をしていくことが重要である。</li> <li>・バリアフリー計画についても、早急に対応策を検討していただきたい。</li> </ul>

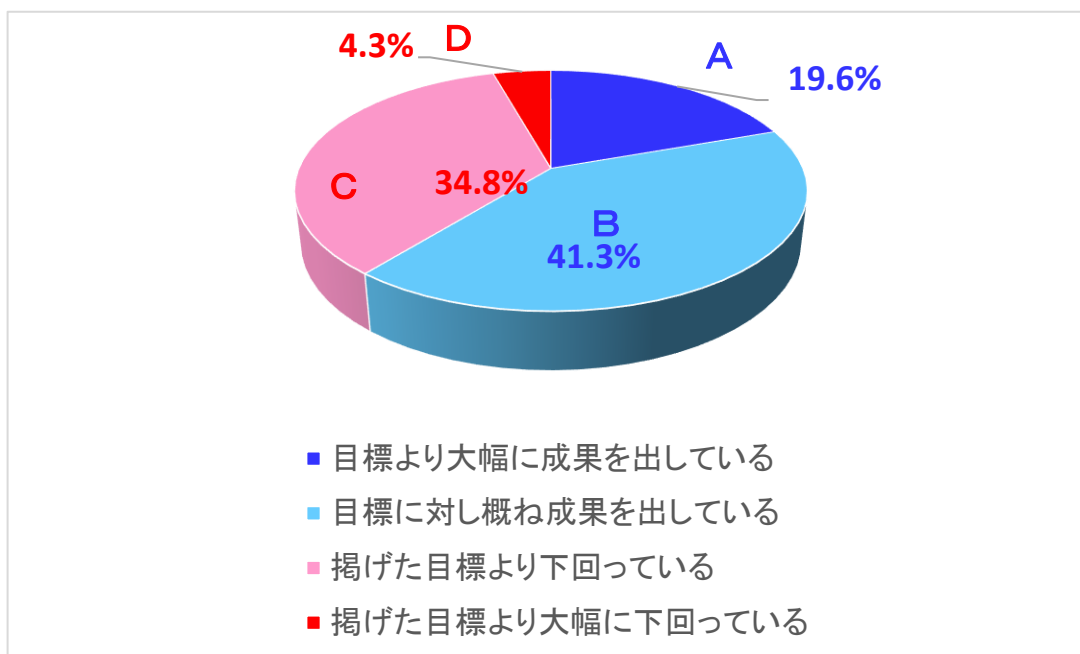


## 令和5(2023)年度事業計画評価結果

### 1. 評価結果

評価の基準	標語	評価結果	評価結果
目標より大幅に成果を出している	A	9	19.6%
目標に対し概ね成果を出している	B	19	41.3%
掲げた目標より下回っている	C	16	34.8%
掲げた目標より大幅に下回っている	D	2	4.3%

### 2. 評価結果の割合





発行日：令和6（2024）年7月

発行：兵庫大学・兵庫大学短期大学部 大学質保証委員会